

# 国語科学習指導案

指導者 佐藤 哲

- 1 学 級 第2学年1組 男子12名 女子12名 計24名  
2 単 元 名 思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう～みきのたからもの～（6/10）  
3 単元目標

- 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知識及び技能）
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習に見通しをもって話を紹介する文を書こうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

## 4 単元構想

### ① 単元にかかわる子どもの実態

明るく活発で、授業中に発表しなくても課題に対して友達と協力しながら解こうとしたり、最後まで粘り強く取り組んだりする子が多い。国語の授業に前向きに取り組むことができる。しかし、自分で考えて表現することに自信がないため、友達と関わりを求める子が多い。そこで、一学期は自分の考えを明らかにした上で友達と自由に交流することで、自分の考えに自信をもてるようにした。また、動作化を取り入れた朗読劇をすることで、みんなで学ぶ楽しさを共有しながら授業を行ってきた。

これまでの国語の物語文では、中心人物を追えば内容の大体を捉えることができた。しかし、前単元の「お手紙」では、登場人物である二人の行動や心情について考えたり、二人の気持ちを同時に考えたりすることに戸惑い、自分の考えに自信をもてない子が多かった。「みきのたからもの」では、自信をもって自分の考えを言葉で表現できる力をつけたい。「○○と書いてあるから、□□だと思う。」と、物語の記述を根拠にした考えを伝えることで、さらに想像力豊かに読むことができるようにしたい。また、みきとナニヌネノンの行動や会話、様子や挿絵に着目し、描かれていない二人の背景にある気持ちについて想像し、友情を深めていく過程や、出会いを通してのみきの変化について想像力を広げながら読み取ることで、より読書の楽しさを感じられることを期待している。

### ② 単元で付けたい力と研修とのかかわり

本単元では、思いうかべたことをもとに相手を読みたいと思うように物語を紹介できることを目標としている。単元前半では「知るための学習課題」を「みきのたからものあらすじをつかもう」とする。子どもたちは、物語を読んで自由な感想をもったり、挿絵がないナニヌネノンの姿を想像豊かに表現したりするだろう。また、あらすじを考える学習では、主語や述語、出来事の順番を意識しながら、場面の様子や登場人物の行動・挿絵等を手がかりにして、誰が何をしたか、どんな出来事が起こったのかに着目して、相手を読みたくなるような本の紹介が書けるようにしていきたい。

単元後半では「わかるための学習課題」として「みきとナニヌネノンの様子を思いうかべよう」とする。本時では「第三場面の二人の様子を思いうかべよう」という学習課題を提示して、二人の友情が深まっていくきっかけとなる場面の様子を想像する活動を行う。子どもたちはあらすじを参考に出来事と背景にある思いを結び付けて考えるだろう。その中で、「ナニヌネノンを見おろうと思いました。」という叙述と「リボンが見えなくなるまで、ここで見おくりたいの。」という叙述を比べることで、「みきは、何でリボンが見えなくなるまで見送りたくなったのか。」という問いが生まれるようにしたい。全員で共有するため、自分の考えを書いてから話し合う。既習事項からみきの優しさに着目する子、乗り物の飛び方が気になる子、友達だからと考える子など、様々な意見が出ることで、友達の考えの良さに気付いたり、考えを変えたりする子も出てくるだろう。しかし、子どもの考えがそれぞれ異なっても、どの考えの根底にもみきの優しさがあり、そのようなみきだからこそナニヌネノンと友情を深めていることを押さえた上で、視点を変えてみきにポロン星の石を渡したナニヌネノンは、みきのことをどう思っているのか、と問う（深める問い）。ナニヌネノンがみきに青い石を渡したことからプレゼントの交換だと考える子や、誰かに見送ってもらうのが初めてで嬉しいから、というように教科書の叙述を根拠に考える子、二人の関係性を想像して考える子がいるだろう。ナニヌネノンの台詞「きっとまた会えますように」の「きっと」は強い要望であり、「必ず」という言葉で言い換えることができることや、ナニヌネノンのみきへの思いを押さえることで、ナニヌネノンにとってもみきとの友情が深まっていることに気付く姿を期待したい。教科書の叙述をもとに想像したことを全体で共有することを通して、この場面で自分が好きなところやすてきなところはどこかまとめていく。単元後半の授業の最後に、みきにとって「ひみつのたからもの」とは何かもう一度考えることで、青い石に込められた思いやみきの成長について気付き、次時への意欲付けができるようにしたい。

単元のまとめ学習ではパフォーマンス課題として、ブックトーク（物語の紹介）を行う。三年生が読みたくなるように分かりやすく発表しよう、と単元の最初に投げかける。個人で作成した紹介カードを持ち寄り、相手を意識しながら、どんな内容にすれば物語の楽しさが伝わるかグループで考えていく。全体でお互いの発表を見合い、その良さを共有することで、言葉がもつ良さや、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合う良さを、一人一人が実感できる姿を期待する。

単元の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、物語を紹介する文を書くことができる。

単元の入口

「みきのたからもの」って何だろう。

単元を貫く課題

三年生に「このお話をどうやって紹介しようかな。」

時	○学習課題 ☆予想される児童の問い ★深める問い	評価(おさえたいこと)
<p><b>A 知るための学習課題</b> 「みきのたからもの」のあらすじをつかもう</p>		
1	○自分が感じたこと(「おもしろいな」「いいな」「不思議だな」「もっと知りたいな」)を書こう。 ☆ナニヌネノンはどうな姿なのかな。 ★みきの「ひみつのたからもの」って何かな。	物語文に関心を持ち、物語の中で自分がおもしろいと思ったことやふしぎに思ったことやその理由をまとめ、友達と伝え合おうとしている。(主)
2	○心に残ったことを友達と伝え合おう。 ☆たくさんの友達に話したいな。聞きたいな。	
3	○「誰が何をしたか」「どんな出来事が起こったか」に着目して、あらすじをつかもう。 ☆「あらすじ」って、何かな。 ★どんな事が、どんな順番で起こったのかな。	文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。(知)
4	○「みきのたからもの」のあらすじを書いてみよう。 ☆どんな風にあらすじを書けばいいのかな。 ★お話を知らない人にとって、どんなあらすじだと分かりやすいのかな。	場面の様子や登場人物の行動、会話などを手掛かりとしながら、内容の大体を捉えることができる。(思)
<p><b>B わかるための学習課題</b> みきとナニヌネノンの様子を思いうかべよう</p>		
5	○みきとナニヌネノンは、どんな人なのかな。 ☆みきは どうして見送ろうと思ったのかな。	場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について、何をしたのか、なぜしたのかを具体的に思い描きながら想像することができる。(思)
6 (本時)	○第三場面の二人の様子を思いうかべよう。 ☆みきは、なぜリボンが見えなくなるまで見送りたいくなったのかな。 ★みきにポロロン星の石を渡したナニヌネノンは、みきのことをどう思っているのかな。	場面ごとに文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(思)
7	○二人の友情について想像しよう。 ☆別れの場面で相手に対してどんなことを思っているのかな。 ★二人の出会いから別れまでの心情の変化を考えよう。	身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うと共に、言葉には意味のある語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(知)
8	○第五場面の様子を思いうかべよう。 ☆みきがナニヌネノンのことを誰にも話さないのはなぜかな。 ★みきの「ひみつのたからもの」って何かな。	
<p><b>使う活動(パフォーマンス課題)</b></p>		
9	○紹介カードを作って、お互いに読み合おう。 ☆どんな内容にすれば物語の楽しさが伝わるかな。 ★自分の紹介カードのどこが素敵かな。	登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見直しをもってお話を紹介する文を書こうとしている。(主)
10	○紹介カードを使って、お話を紹介しよう。 ☆三年生が読みたくなるように、分かりやすく発表しよう。	友達と紹介カードに対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(思)

単元の出口の姿

子どもたちがみきとナニヌネノンの様子が分かる言葉に着目して、友情を深めていく二人の行動や心情を具体的に想像することをもとに、物語のあらすじや自分が好きなところやその理由、自分が考えたみきのひみつのたからものについて紹介カードにまとめ、相手が読みたいと思うように物語を紹介することができる。

6 本時の目標

みきはなぜリボンが見えなくなるまで見送りがたかったのかな、という問いをもった子どもたちが、叙述をもとに2人の様子や気持ちを具体的に想像したり、友達と考えを交流したりすることを通して、第三場面で自分が好きなことや素敵だと思うことについて、自分の考えを書くことができる。

7 指導過程

予想される子どもの活動（・）と教師の働きかけ（○）	留意点（※） 研修の視点（☆） 評価
<p>(学習課題) 第三場面の二人の様子を思いうかべよう</p> <p>○第三場面で、二人に何があったかな。 ・まず、みきがリボンをナニヌネノンに渡した。 ・次に、ナニヌネノンが首をかしげた。 ・そして、みきがその理由を説明した。 ・それから、ナニヌネノンがありがとうと嬉しそうに言って、リボンを結んだ。 ・ナニヌネノンがみきに小さな石を渡した。 ・みきは、目をかがやかせて、石を受け取った。 ・みきは、石が光るのを見た。音が鳴るのを聞いた。</p>	<p>※前時と本時の二人の関係性を対比できるように、今までの場面での二人の様子や関係性を強調する。特に、みきのナニヌネノンに対する緊張感を引き出す。</p> <p>※本時はどの場面について考えるのか明確に分かるよう、第三場面（P61L8～P65L2）だけ音読する。</p> <p>※第三場面の出来事を短冊にして、順番を意識できるように黒板に貼る。</p>
<p>(子どもにもたせたい問い) みきは、何でリボンが見えなくなるまで見送りがたかったのかな。</p> <p>○みきの台詞「リボンが見えなくなるまで、ここで見おくりたいの。」のあとに、「だって…」を付け足して、みきの気持ちを想像しよう。 ・だって、マヨネーズのようきみみたいな形の乗り物が、どんな風にとぶか気になるもん。 ・だって、宇宙人に初めて会ったもん。どれ位遠くまで帰るのかな。 ・だって、ポロロン星までちゃんと帰れるか、心配だもん。 ・だって、ナニヌネノンとはもう会えないかもしれないもん。別れるのはさびしいな。 ・だって、ナニヌネノンは友達だもん。友達は大切にしよう。 ・だって、おじいちゃんおばあちゃんや、ホテルの人に見えなくなるまで見送ってもらえたら嬉しかったもん。 ・友達の考えを聞くと、やっぱりみきはとても優しい子だね。 ・ナニヌネノンについて、凄く気になっている。 ・どうでもいい人にリボンは渡さないよ。少ししか会ってないけど、みきとナニヌネノンは友達になったんじゃないかな。</p>	<p>☆「いいこと考えた。」という叙述からリボンを渡した理由を考えることで、何でリボンが見えなくなるまで見送りがたかったのかという問いをもたせたい。</p> <p>☆同じ場面・叙述でも人によって考え方や感じ方が異なることを確認し、学びを深めるために、学習形態を変えながらそれぞれの意見を表現できるようにする。</p> <p>※子どもの考えがそれぞれ異なっても、どの考えの根底にもみきのナニヌネノンを思う優しさがあり、そのようなみきだからこそナニヌネノンと友情を深めていることを押さえる。</p>
<p>(深める問い) みきにポロロン星の石を渡したナニヌネノンは、みきのことをどう思っているのかな。</p> <p>○ナニヌネノンの気持ちを想像しよう。 ・見送ってくれて嬉しい。ありがとう。 ・誰かに見送ってもらえるのが初めてで、凄く嬉しいから、ありがとうと思っている。 ・きっとまた会えますように、という願いをこめているから、また会いたいと思っている。石をもっていけば会えると思うから。 ・音がなったり、光ったりする凄く石を渡しているから、みきがとても大事な友達だと思っている。 ・みきがリボンをくれて、ありがとうと思っている。 ・リボンのお礼として石を渡している。プレゼントを交換しているから、大事な人だと思っている。 ・ナニヌネノンはみきのことを、友達だと思っている。 ・ナニヌネノンにとって、みきは大事な人だと思っている。</p> <p>○第三場面で自分が好きなことや素敵だと思ったことはどんなところかな。ノートにまとめよう。 ・みきがナニヌネノンに対して優しいところがいいな。 ・ナニヌネノンがみきにどんどん心を開いているところがいいな。 ・ナニヌネノンとみきがどんどん仲良くなっているところがいいな。 ・やっぱりポロロン星の青い石だ。かすかに光るし、音が鳴るし、不思議な石だから。</p>	<p>☆みきの視点からナニヌネノンの視点に変えることで2人の様子や気持ちをより深くとらえられるようにする。</p> <p>※「きっと」は強い要望であり、「必ず」という言葉で言い換えることができることを押さえ、ナニヌネノンのみきへの思いを押さえる。</p> <p>※単なるプレゼント交換として捉えることがないように、リボンはプレゼントとして渡したのか全体で確認し、みきとナニヌネノンの思いが異なることに気付けるようにする。</p> <p>【評】 第三場面での二人の行動や様子について具体的に想像したことやこの第三場面の好きなところや素敵だと思ったことについて自分の考えをまとめて書いている。(思考・判断・表現) 《記述・発言》 ※書き終わった子ども同士交流し、お互いの良さを伝え合うことで学ぶ楽しさを実感できるようにする。</p>

